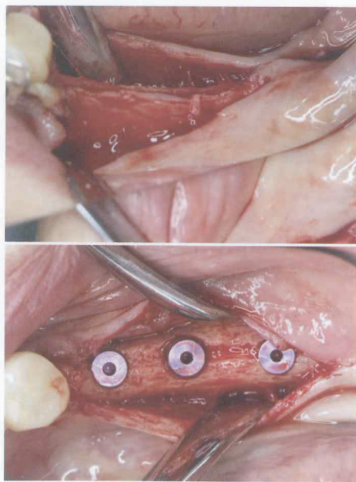


既存骨を活用する スプリットクレストの臨床例

東京都・ファミリー歯科／歯周病インプラントセンター東京・杉並

三串雄俊

Taketoshi MIKUSHI



従来の歯列欠損の回復法として、ブリッジや床義歯がある。現在、その他の選択肢として、インプラントによる補綴が広く認められるようになった。そして、いまやインプラントによる欠損回復処置は、歯科医療のオプションとして欠かせないものとなった。

インプラントによる欠損回復の臨床応用の拡大において、インプラント自体の進化もさることながら、埋入する顎堤の状態を改善すること、すなわち、顎堤の骨造成に関する術式も確立されてきている。しかしながら、なかにはわれわれ一般開業医にとって難易度が高いものもある。そのなかで、既存骨を利用する方法は、日常臨床において比較的応用しやすいのではないだろうか。

本稿では、既存骨を活用した骨造成としてスプリットクレスト、とくに下顎の狭窄歯槽骨に焦点を当てて紹介したい。